

ROTARY CLUB OF NAGOYA MEINAN WEEKLY REPORT 2012-2013



名古屋名南ロータリークラブ

■承認 / 1991年3月8日 ■例会日 / 火曜日・PM6:30 ■例会場 / 名古屋マリオットアソシアホテル
■会長 / 宮崎 良一 ■幹事 / 坂本 晃 ■会報・雑誌・広報委員長 / 東山 直史
■事務局 / 〒450-6002 名古屋市中村区名駅1丁目1番4号 名古屋マリオットアソシアホテル 2202号
TEL.052-586-2043 FAX.052-586-2054

URL <http://www.meinan-rotary.com> E-mail info@meinan-rotary.com

第1037回

2013年2月26日(火) 曇り 第31回

～世界理解月間(世界理解と平和週間 2/23～3/1)～

斉唱 それでこそロータリー
出席 会員55名(出席率算入人数49名)
出席43名 出席率87.76%
前々回補填率91.11%(2月12日分)
ビジター 名古屋東南RC 牧野 弘明さん

会長あいさつ

会長 宮崎 良一さん

皆さま、こんばんは。久しぶりに通常の例会になりました。4RC合同例会そして創立記念例会と楽しい日を過ごしまして、更にI.M.と懇親行事が続いておりました。



I.M.では、混声合唱団に熱演していただきまして、どうもありがとうございました。皆さまのご協力で名南RCの名が上がったと思います。

本日は、2RC合同例会のスポンサーであります東南RCの牧野さんにおいでいただきました。2RC合同例会では、カラオケ大会の企画があるということで後程ご報告をよろしく申し上げます。

本日は、川瀬さんに卓話をしていただく事になっております。ご承知の通り、川瀬さんは薬品関係のお仕事をされております。今、アベノミクスの最後に製薬と医薬品の販売が、新しくこれから伸びていく産業として位置付けられていると思います。そのような事で規制緩和という流れの中で動いておりますが、製薬に関しても規制緩和がかなり進み始めています。

更に、医薬品の販売について今日これからお話を伺うわけですが、ネット販売の規制、そのものの解除など少しずつ動きが出てきています。そのような新しい流れについても今日は川瀬さんのお話を伺いながら考えて参りたいと思います。

幹事報告

幹事 坂本 晃さん

1. ロータリーレートが2月までは88円でしたが、3月より92円に変更になります。
2. 3月2日の午後5時から17階「パイン」で理事会を行います。

3. 2RC合同例会が4月17日(水)にマリエカリヨン出雲殿であります。午後5時から午後5時55分までに8階で登録をしていただきます。その後、午後6時から7階で合同写真を撮影します。午後6時10分から例会で、午後6時30分から懇親会が始まります。交通手段は、なるべく車ではなく送迎バスを利用して下さい。送迎バスは、名古屋マリオットアソシアホテルバス乗り場より、始発が午後5時から最終午後5時30分まで出ます。懇親会は、カラオケ大会ということです。
4. RIより詐欺メールの注意喚起がありました。英文でRIからのメールのように見せかけています。詐欺メールの最初の文章はDear Club Memberとなっているそうなので、そのような英文のメールは開かないで下さい。
5. 海外出張届が出ています。三浦隆さん、ケニアに2月22日～3月5日までです。

ニコボックス

◆川瀬さん卓話ががんばって下さい!

細井 俊男さん 杉山 隆秀さん 大平 明子さん
加藤 英敏さん 榊原 和美さん 中村 勝さん
川瀬 悟さん 野々村憲吾さん 白藤 憲雄さん
三浦 和人さん 田中 一雄さん 木下 福郎さん
宮崎 良一さん 川辺 清次さん 大橋さなえさん
加藤 宜之さん 坂本 晃さん 中西 芳子さん
牧野 好弘さん 森田敏二三さん 久米 伸治さん
長尾 浅吉さん 朝比美和子さん 白銀 義昭さん
新原 尚さん 浅井 浩さん 伊藤 圭一さん
安藤 修さん 東山 直史さん 三島多恵子さん
犬飼りさ枝さん 吉木 邦男さん

本日合計 33,000円 累計 851,700円

アンチエイジングエクササイズ

中村 勝さん

会員卓話

委員長 川瀬 悟さん

皆さま、こんばんは。先週は河文で創立記念例会を楽しく行いまして、大橋委員長始め、親睦活動・家族委員会の皆さま、大変ご苦勞さまでした。ありがとうございました。会員卓話ということで、今日は大半が当社の宣伝になって



しまいます。

当社は調剤事業と介護、それから老人ホーム事業を行っている会社です。中日エムエスの企業理念は、2年前のイニシエーションスピーチの時にも少し触れたかと思います。創業者は、奥村宣和です。当社は、お客様へのホスピタリティー、地域社会へのホスピタリティー、株主へのホスピタリティー、お取引先へのホスピタリティー、従業員へのホスピタリティーという企業理念で経営しております。

最初に患者様へのホスピタリティーというのをあげていますのは、創業者が理念の一つとして少しでも病める人のお役に立ちたいという思いでもって、我が中日エムエス（中日メディカルサービス）を設立致しました。中日調剤薬局グループは、信頼と安全をモットーに数々のメディカルサービスを提供する調剤薬局です。確かな調剤技術と的確なサービスを提供することは勿論の事、患者様一人一人の体と心にしっかりと向き合い、きめ細かなアドバイスと温もりのある接客を通じ、一日でも早く健康を取り戻されるよう日々努力しております。

これは当社のホームページから抜粋した言葉ですが、先程お話ししたように患者様一人一人との接点を強化するために、当社では大半の店舗、今は16店舗でやっている訳ですが、その内の14店舗が〈座り投薬〉を行っております。こちらのクラブにも当社の調剤薬局をご利用いただいている方が多数おられると聞いていますし、実際にどのような雰囲気かという事は、体感していただいているのかなと思っています。〈座り投薬〉ということで、中村日赤近くにある当社の調剤薬局の薬剤師二人です。左が店長兼管理薬剤師です。右は、非常に接客のいい心優しい女性ですので中村日赤周辺に行かれたら、顔を見に行ってお話下さい。

今現在当社では、16店舗中13店舗でマンツーマンという言い方をしますが、開業医さんと常日頃から打ち合わせをして、処方ドクターと連携を取りながら、処方元のドクターと一緒に疾患や薬剤の勉強会を行い処方意図について理解しています。時に疑義照会を行うとありますが、これは後で説明しますが処方箋の記載通りに薬を調剤すればいい訳では決してございません。実はドクターの処方意図と異なるような場合も中にはございます。

それと一番気を付けないといけない事は、お一人の患者様が2科3科から処方箋をお持ちいただく事が非常に多くあります。そのような時に薬と薬の副作用や飲み合わせが悪い場合、優先順位を付け、どちらかの処方の量を減らすなり薬を変えていただくなり、処方箋を受けた段階で処方箋監査と我々は言っているのですが、それを行った後調剤に入る事になっております。その処方箋を受け取ったらすぐ薬を出せばいいんじゃないかとよく患者様にお叱りを受けますが、これ以外にも非常にたくさんの事を薬剤師が複数で行っております。そうした後に、患者様一人一人に合った投薬を行いまして、心から大切に想い、人生を豊かにするお手伝いをするという事を日々ここに書いてあることを練り上げながら、毎日の仕事に入るという事をしております。

こちらは中日ビルの斜め向かい側の広小路に面した日丸名古屋ビルという所で、今から27年前に開設した中日調剤薬局の一号店で、今は35の診療所

が入っており、中に入っていない科は、産科ぐらいです。後は全て入っております。処方箋枚数は、月当たり約9,000枚、一日当たり400枚を受けております。最近はジェネリック医薬品の使用が増えてきていますので、今現在は約2,100品目の医薬品を取り扱っております。これは国公立の病院と比較しますと、例えば名古屋医療センターそれから第一・第二日赤病院と比較しますと、ほぼ3倍近くの品目数になっていると思います。その処方箋を14人のスタッフでローテーションを組んで業務に当たっております。これは新卒の薬剤師や医療事務に話をする時によく使うチャートですが、これだけの業務がございます。

この中で薬袋というのは、一般用語ではないですからパソコンなどでは絶対に変換できません。これは我々独自の用語と理解しております。薬を入れる袋ということですね。7番目の調剤監査というのは、薬を患者様にお出しする前に薬剤師が薬袋それから薬の数や種類などの間違いがないかを調べる事です。こちらで間違いがあってパスしてしまうと、とんでもない事になりますし、もし仮にパスしても今度は投薬の時に別の薬剤師が患者様にお薬を見せながら、間違いがないか確認しながら服薬指導に入ります。後は計算をして一部負担金をいただいてお帰りいただくという流れになっております。

こちらは非常に見にくいですが処方箋です。昔はA4サイズだったのが今はA5サイズになっています。A4からB5になりA5になりました。行政の意図的なものを感じます。というのは、処方箋を小さくすれば、処方薬品を減らせるという事もあるということも変更時はあったと聞いております。

こちらは初めて見られる方ばかりだと思いますが、薬剤服用歴というものです。クリニックで言いますと、カルテという事になります。この中には、患者様の住所や嗜好品、他科受診など調剤に必要な情報がすべて網羅されております。複数の薬剤師で業務している所では、これが非常に大事なツールになっております。

薬剤の記載方法としましては、サブジェクト・オブジェクト・アセスメント・プランという属にSOAPと言っているのですが、客観的・主観的の色々な観点から情報を得て、次の薬剤師の服薬指導に渡すというようなことになっております。

昨今、処方日数が長くなっておりまして、昔は2週間処方というのが主流でしたが、最近では30日、60日、場合によっては90日という非常に長い処方日数になっております。その分こちらの薬歴が非常に重要になってきております。これは先程の薬袋です。昔から内服薬は青で、外用薬は赤という約束があるみたいです。飲み薬で頓服がありますが、内服は全て青で当社は統一しています。昔は頓服だけ緑を使っていた時がありました。

それから皆さまも持たれているとは思いますが、これはお薬手帳です。3.11の災害時に被災者の方が医療関係で一番困られたのが、自分がどのような薬を飲んでたか、使用していたかが分からなくなってしまった事です。その時にお薬手帳を持っておられた方は非常に役に立ったと聞いております。当社でも震災後に、震災の話をお薬手帳がしつと今までもお薬手帳はいらないとされる患者さんが多かった

のですが、それ以降は耳を傾けて持ってみようと、持ちたいと現在はなっています。

お薬手帳を持っていただく工夫は、各店舗で努力してやっております。これは薬剤情報というのですが、患者様が服用されているお薬の写真と服用方法と使用方法、それから薬効・効能効果が書かれています。一番大事なのは、注意事項や併用禁忌です。お薬には禁忌というものがあり、人によっては絶対に使用してはダメな物があり、そのような情報をこちらの各ページの右側に重要な事だけ記載するようにしております。毎回同じような物をお渡しするかもしれませんが、一度は全て見ていただけたらと思います。これは当社の小牧の薬局の写真です。

こちらはマンツーマンになりますが、当クラブの山本さんの義理の弟さんから処方を受けている薬局です。薬品数は、700~800になります。それからこちらは、北区の黒川店です。太田さんが手掛けられたビルの2階で医療介護のコーナーがありまして、そちらで展開している薬局です。オープンスペースとサイドから調剤室の中が見られるというのが、我々の自慢の一つです。全国的にもあまりこのような形式の薬局は少ないかと思えます。

それからこれは皆さま初めて見られると思いますが、本店では一日400枚前後の処方箋を受けていますので、薬剤師も12~13人で右往左往しておりますが、これは自動錠剤払出装置と言いましてコンピュータから処方入力しますとこちらのロボットの方から払出する装置です。これは薬の間違いやチェックも兼ねているので、非常に役に立っております。なかなか投資分を回収する所まではいかないのが現状です。従来軟膏は軟膏版と軟膏ヘラで混ぜていましたが、これは2種類以上の軟膏を混ぜる機械です。名前はマゼリータといい加減な名前が付いています。他のメーカーでは軟膏練太郎という物もあります。この辺はメーカーも適当にネーミングするのだなと思いました。こちらは散薬の監査システムですが、当社が今から27年程前に当時1,800,000円程しましたが、これを創業者の奥村が導入するという事でそれ以来ずっとこのシステムは使い続けています。今ではどの薬局でも当たり前になりました。価格も随分下がってきております。

こちらが従来紙薬歴でやっていた業務ですが、今は電子薬歴になっております。クリニックでも電子カルテになっているのと全く一緒です。こちらは小牧の桃花台店の店長兼管理薬剤師です。これは、最後に投薬という形です。ここの所が1番時間を要する所です。

当社ではサプリメントも扱っております。ご要望がありましたら全店舗で扱っております。ロータリー価格で販売しますので、名南RCと言っただければお安く致します。最後に、日赤店の方では内分泌のドクターが糖尿病の患者様に管理栄養士が月に1、2回出向きまして、予約を取って食事指導、相談も行っております。お時間になりましたのでこれで終わります。

第 1039 回例会 (3月12日) のご案内

外部卓話

元日本銀行勤務 黒田太郎氏